

## 資料3

## ◎取り組み目標「医療・介護・福祉の連携の推進」

## (1) 認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みづくり

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
早明浦病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケアに係る各種の研修へ参加し、研鑽を積んだ。</li> <li>土佐町認知症初期集中支援チーム員会議にDr、Ns、OT等が参加した。</li> <li>大川村認知症初期集中支援チーム員会議へDr、OTが参加(3月下旬の予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土佐町認知症初期集中支援チームの活動が訪問リハにつながった。</li> <li>対象者を早期に発見し、すくい上げるシステムの構築が必要と思われる。</li> <li>地域包括支援センターと顔の見える関係づくりができた。</li> <li>同左</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症に係る研鑽を積むとともに、地域包括支援センターなど、関係機関(施設)との一層の連携強化に取り組む。</li> <li>土佐町及び大川村の認知症初期集中支援チームにDr、Ns、OT等を参加させる。</li> <li>認知症に係る啓発については、今後もお役に立ちたい。</li> </ul>
嶺北中央病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>こうちオレンジドクター登録済</li> <li>認知症初期集中支援チーム講習会参加</li> <li>院内各部署への認知症患者の看護マニュアル配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オレンジドクターの登録</li> <li>多職種連携の講演会に参加し、顔の見える連携が構築できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オレンジドクター登録継続</li> <li>各種講演会への参加</li> </ul>
高知県看護協会 嶺北地区代表	<p>研修会への参加推奨 看護協会東部2地区支部 (土佐山田・南国・嶺北)研修会 ○「認知症ケア 実践編」10/21 認知症についての理解を深め、看護実践に生かす。 対象者:看護職員・看護補助者 看護協会 ○看護職員認知症対応力向上研修 10/27~29 (3日間)</p>	<p>平成28年度診療報酬改定で認知症ケア加算の要件も加わり、認知症に関する研修会の機会は増えてきている。</p> <p>個々の施設内では認知症の早期発見、早期対応のための情報共有体制も少しずつできているが、地域での看護師同士の連携はまだ乏しいと感じる。 認知症ケアを実践していくためにも必要な情報が継続されることが大事。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの施設内で事例検討などを積み重ねる</li> <li>医療機関では認知症と身体疾患のケアと両方が必要であるが、まだまだ看護職が誰でも対応できている状況ではなく今後も教育、研修を基本にして人材育成を行う。</li> </ul>
高知県薬剤師会 嶺北地区代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護連携研修に積極的に参加しました。</li> <li>気づきノートを活用し、早期の段階で多職種へ連絡をしました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症やうつ症状による心の悩みを傾聴できるようになった。</li> <li>気づきノートを活用し連携を図りました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の顔見知りの薬剤師として相談の窓口となる</li> <li>引き続き気づきノートを活用</li> </ul>
大豊町 社会福祉協議会	<p>地域包括支援センターとの定例会(月1回) 地域ケア会議(1回/2月) 医療機関との連携 随時</p>	<p>地域包括支援センターとの連携を図った。定例会やケア会議に参加し、事例を共有できた。 医療機関と連携を密にし、情報収集に努めた。 課題 早期発見し、関係機関と連携をとり、在宅ケアを進めても限界を感じる事例がある。</p>	<p>平成29年度の内容を継続する。 地域包括支援センターとの定例会(月1回) 地域ケア会議(1回/2月) 医療機関との連携 随時</p>

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会 嶺北代表		連絡票を作成し、医師へ利用者の情報を提供できた。	多職種との連携がスムーズに図れるよう、研修会を行い、お互いの業務内容を理解していく。
本山町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業実施検討会での話し合い後、事業の一部を医師会へ委託し、コーディネーターを配置した。</li> <li>・高知県認知症高齢者見守り体制整備モデル事業を実施。</li> </ul> ①1行政区で6回意見交換会を開催(10/17～2/17) ②土佐清水市を民生委員、社協、行政、包括の四者が視察(12/12) ③ネットワークのチラシ全戸配布(11月・2月) ④土佐町社協(あじさいネット)と連携について協議(12/14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症初期集中支援チームを発足させ、稼働することができた。</li> <li>・認知症ケアパスを作成し、全戸配布を行い、認知症理解への啓発ができた。</li> </ul> 個別ケアプランへの検証、指導をおこなうケア会議(ケアマネアカデミー)を毎年開催することができた。 ・課題解決型のケア会議(ネイバー会議)において、多職種と意見交換したり、勉強会をすることができた。	今後もケア会議を個別型と課題解決型に分けて行い、その時期にあった事例を話し合い共通認識をもてるようにする。
大豊町	○認知症に関する勉強会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・DASKの講師の日程調整がつかず開催できず。</li> <li>・認知症初期集中支援チームをつなぐ会に参加</li> <li>・服薬管理に関する勉強会の開催</li> </ul> 講師：薬剤メーカーの職員を講師に招く 内容：飲み忘れサポートのための機器の紹介 参加者：町内介護事業所職員、町保健師・社会福祉士、プロジェクト推進班職員	★平成29年度末の姿(アウトカム) <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見、早期治療に結びつき、地域生活が継続してできるよう仕組み作りを行う。</li> <li>・関係機関(多職種)の役割・機能を理解し、支える仕組みを作る。</li> </ul> ○取り組み 第6期介護保険事業計画とともに、地域支援事業の包括的支援事業(社会保障の充実)として取り組む。 平成27年度：認知症地域支援推進員養成 認知症ケアパス作成 平成28年度：認知症初期集中支援チーム立ち上げ (物忘れ相談係) 平成29年度：認知症初期集中チーム員会議 1回/月 (物忘れ相談室) ○成果：住民から物忘れ相談係を指名し電話相談等が掛かってくるようになった。庁舎内でも、物忘れ相談係として電話が回してもらえる。 ○課題：早期発見が必ずしも地域生活の継続に結びついていない。認知症に限った施策では解決が困難。地域包括ケアシステムの構築が必要。	★認知症高齢者が在宅生活が継続できる仕組みづくり ○指標 物忘れ相談係の初期対応終了時の在宅率 ○取り組み 1回/年以上、認知症に関する医療・介護職種での勉強会の実施

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
土佐町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア(個別会議)の開催:12月14日、3月8日</li> <li>・認知症初期集中支援の実施 第1回チーム員会議、訪問の実施(10/18) 第2回チーム員会議、訪問の実施(2/7) 第3回チーム員会議(3/7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年度から取り組んでいるフィールド医学の健康長寿問診票やご長寿健診での認知機能検査等の実施及び専門医の診察によるMCIの早期発見・早期対応の取り組みとともに、平成28年度には、認知症初期集中支援チームの設置、認知症地域支援推進員の配置など、認知症の早期発見・早期対応に向けた仕組みが構築された。</li> <li>・平成28年度から地域ケア会議(個別会議)を定期開催し、多職種で事例を検討することで、地域課題の抽出と対応策の検討ができる体制ができた。また、定期開催することで、多職種による顔の見える関係づくりと相互理解が更に深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議、認知症総合支援事業、生活支援体制整備、在宅医療・介護連携事業を一体的に進めることで、認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの連携の仕組みを構築する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大川村</li> <li>・大川村社会福祉協議会</li> </ul>	H30.2 大川村認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員設置 初期集中支援チーム員:早明浦病院医師(サポート医)、早明浦病院理学療法士(チーム員①)、大川村社会福祉協議会介護支援専門員(チーム員②)、大川村保健師(チーム員③) 地域支援推進員:大川村保健師	社協を中心に住民の日頃の様子を把握できており、様子に変化があったときには随時保健師まで相談する流れができています。 <b>【課題】</b> 村内の連携だけでなく、村外の関係機関(特に、医療面)との連携が欠かせない状況もでてきている。	今後、医療との連携に重点を置き、診療所医師・看護師や、認知症初期集中支援チームのサポート医など、村外医療機関とケース相談等を通じて関係づくりを行っていく。

## ◎取り組み目標「医療・介護・福祉の連携の推進」

## (2)在宅ケアを支えるため入院・入所施設との連携の仕組みづくり

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
早明浦病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐町地域ケア会議へDr、PT等が参加し、協議に参画した。</li> <li>・退院前カンファレンス、退院前訪問及び退院時リハ指導に積極的に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターのスタッフと顔の見える関係づくりができた。</li> <li>・退院前カンファレンス、退院前訪問及び退院時リハ指導の件数が伸びる傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議への参加など、地域との一層の連携強化に取り組む。</li> <li>・退院前カンファレンス、退院前訪問及び退院時リハ指導に積極的に取り組む。</li> </ul>
嶺北中央病院	退院前カンファレンス 20件、退院前自宅訪問 13件、地域包括から連絡のあった患者さんの外来診療を受け入れ、緊急入院 10件を実施した。レスパイト入院も受け入れた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院前カンファレンス、退院前自宅訪問の増加</li> <li>・レスパイト入院の実施</li> <li>・多職種の症例検討会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内での事例検討や研修会の継続</li> <li>・レスパイト入院の住民への啓蒙</li> </ul>
高知県薬剤師会 嶺北地区代表	介護家族の日頃の悩みを傾聴し他機関へ支援内容を主に電話で連絡をしました。	お困りごとを聞き、必要な支援として残薬調整や服薬支援以外にも栄養状態の取り組みが増えてきた。	患者とご家族から求められる薬剤師になるため、患者の新鮮な情報収集に努める。
大豊町 社会福祉協議会	医療機関、施設等からのカンファレンスへの出席はもちろんのこと、社協からも積極的に情報提供をお願いします。 退院時には、関係ある他事業職員と出席し情報を共有する。 勉強会、研修会へ積極的に参加し、職員間で研修内容を共有する。	入退院での情報共有のため、カンファレンスには積極的に参加し、在宅生活へのスムーズな移行に努めた。 勉強会等に参加し、他事業所との連携に努めた。	平成29年度の内容を継続する。 医療機関、施設等からのカンファレンスへの出席はもちろんのこと、社協からも積極的に情報提供をお願いします。 退院時には、関係ある他事業職員と出席し情報を共有する。 勉強会、研修会へ積極的に参加し、職員間で研修内容を共有する。
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会 嶺北代表	介護支援専門員と多職種が合同で、高知県立大の西内先生を招き、多職種連携の研修会を実施できた。	多職種との研修会を通し、お互いの業務内容を理解し、多職種との連携に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央東圏域の入退院の仕組みを定着していく。</li> <li>・医療、介護、障がいとの多職種連携を図っていく。</li> </ul>
本山町	地域包括ケア病棟のカンファレンスへ、包括職員、ケアマネジャーが参加し、病院専門職との連携をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な病院MSWと包括支援センター職員との連絡会を開催できた。そして、連携する専門職がPTや薬剤師、医師と広がっている。</li> <li>・嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業で委託している、コーディネータとも今後密な関わりをもち、さらなる連携構築を行う。</li> </ul>	医療・介護連携コーディネータを中心とした、嶺北地域での医療・介護・福祉の連携の推進をおこなう。

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
大豊町	○嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業の一部を医師会等へ委託。(H29年11月1日契約締結) コーディネーター1名を配置する。	★平成29年度末の姿(アウトカム) ・退院時カンファレンスが必要なケースについて、全件行う。 ○取り組み 病院・施設から要請のあったカンファレンスについては、全件参加を目指した。 ○成果 嶺北内の医療機関や介護事業所と顔の見える関係づくりができています。 ○課題 退院調整について、医療機関、施設職員と在宅側サービス職員等で一定のルールが必要かと思われる。	★在宅ケアを支えるための入院・入所施設との連携の仕組みを作る。  ○指標 ・地域包括支援センターの相談対応の内訳内で、退院時カンファレンス等の参加など、調整に加わる件数が増える。 ○取り組み ・退院時カンファレンス等の参加など、調整に加わった件数の把握 ・退院調整について、医療機関、施設職員と在宅側サービス職員等で、定期的な勉強会を持つ。
土佐町	・嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業検討会の実施(10/19,12/18) ・嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業の一部を土佐長岡郡医師会に委託し、コーディネーターと事業の進め方等について検討。(H29.11から委託) ・事例に応じた医療機関との退院カンファレンスの実施。	従来から実施してきた取り組みに加え、嶺北の広域課題を検討する場として、平成28年8月に嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業検討会を設置し、在宅医療と介護の連携推進に向けた事業の整理ができた。	地域ケア会議、認知症総合支援事業、生活支援体制整備事業、在宅医療・介護連携事業を一体的に進めることで、在宅ケアを支えるための入院・入所施設との連携の仕組みを構築する。また、嶺北地域における広域課題解決のために、医師会への委託事業を効果的に実施できるよう検討する。
・大川村 ・大川村社会福祉協議会	高齢者支援ルーム 1名10日間利用 ①退院前カンファ実施。支援ルーム計画書作成。(包括、社協) ②家族付き添いのもと来所し、家族出入りも自由にあり。(本人、携帯電話を所持しておらず、連絡手段の検討要) ③・④帰宅を前提とした職員の対応研修が必要。(必要以上の支援、世話をしてしまうことがあった)	退院カンファレンスに保健師と社協職員(ケアマネ等)が誘い合わせて参加することが増えた。また、在宅から施設を希望する際、包括で適している施設を検討し、本人・家族、ケアマネと協議できた。 高齢者支援ルームを整備し、2名の利用があった。(1名:介護家族とのレスパイト、1名:独居高齢者の退院支援) 【課題】 介護認定で要支援と判定された方が村外の高齢者向け住まい等へ移ることが増えてきている。本人より家族の要望が強いことも多く、在宅生活の選択肢が限られている。	村内の資源(施設・人材等)は限られているが、強みを生かし、「できる限り最期まで暮らせる村づくり」を住民と一緒に関係機関、行政とが協議し、「大川村で最期を迎えるイメージ」を改めて考えられるようにする。 また、村内だけでなく住み慣れた嶺北地域の中で最期を迎えられるよう、嶺北地区在宅医療介護連携推進協議会を中心に取り組んでいく。

## ◎取り組み目標「医療・介護・福祉の連携の推進」

## (3)地域が一体となった看護・介護職員の確保対策の推進

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
早明浦病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県看護協会の看護職就職相談会(2月17日)に参加し、就職を勧誘した。</li> <li>・平成29年度第2回ふくし就職フェア(3月10日)に参加し、就職を勧誘した。</li> <li>・平成29年度看護職員就職説会(3月17日)に参加(予定)</li> <li>・ホームページ、ハローワーク、県社協等を通じ就職の勧誘に努めた。</li> <li>・高校生(嶺北高校)への出前講座で医療の仕事について説明</li> <li>・高校生(嶺北高校)体験学習実施(予定:3月22、23、24日)看護希望4人、看護+リハ希望1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の就職相談会に参加し、就職の勧誘や地域のPRに取り組んだ。直ちに採用に結びつくことは少なかったが、後日、採用に至ったケースもあり、こうした相談会は、大切にしていける必要がある。</li> <li>・ハローワークの求人は地味ではあるが、安定的な成果を上げることができた。</li> <li>・高校生等の体験学習は、仕事や職業に関心を持ってもらえるよい機会。将来の進路選択のお役に立てれば幸い。目指すべき資格等を取得し、地域に帰ってきてもらえれば大きな成果</li> <li>*地域に残って(帰って)就職する若者には、行政としても「地元就職奨励制度」を設けて積極的に支援していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の事業所が行う日常的な募集活動のほか、嶺北地域全体で行う就職相談会を通じて幅広く応募者を募り、地域の各事業所に就職してもらえぬ取り組みを並行的に実施していければと思う。引き続き県福祉保健所、県社協等の支援をお願いしたい。</li> <li>・嶺北高校の卒業生など、地域の若者たちが地域に残り、就職できる職場の一つとして門戸を開放してきた。今後とも魅力ある職場づくりを行い、若者を引き寄せたい。</li> <li>*院内保育の充実、職員宿舎の整備等、働きやすい職場環境づくりに取り組みたい。</li> </ul>
嶺北中央病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住促進住宅12戸の完成</li> <li>・空家への居住の斡旋</li> <li>・れいほく合同就職相談会への参加</li> </ul>	<p>平成26年度から29年度にかけて、看護学校奨学生4名入職。現在奨学生3名。他に薬学部奨学生1名。就職希望の看護師を随時、病院見学の受け入れをしている。毎年、合同説明会に参加。</p>	<p>高校に奨学生の案内をする。</p>
高知県看護協会 嶺北地区代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の施設の可能な範囲での研修のオープン化継続</li> <li>○就職説明会(かるぽーと)予定 平成30年3月17日(土)</li> <li>○職場体験、ふれあい看護体験、復職支援研修等可能な施設での受け入れ</li> </ul>	<p>それぞれ施設の事情の中で可能な範囲で努力している。</p> <p>個々の施設での看護・介護職員の定着率までは不明であるが、個人のワークライフバランスに合う職場が嶺北地域で選択肢の幅ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の施設の可能な範囲での研修のオープン化継続</li> <li>○就職説明会参加</li> <li>○職場体験、ふれあい看護体験、復職支援研修等可能な施設での受け入</li> </ul> <p>今後も医療・介護施設も含めた地域の合同のイベントが計画されると嶺北への関心も高まる、参加にはできるだけ施設からのバックアップがある</p>

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
高知県薬剤師会 嶺北地区代表	職場体験の受け入れを行いました。	職場体験や実務実習生の受け入れを積極的に行い、多職種との連携に関わる重要な職種であることを説明している。	職場体験や実務実習生を受け入れ、薬剤師は地域において大切な役割になれることを説明している。
本山町	具体的には特になし	必要に応じた人材確保支援を実施した。	今後も人材確保の具体案を模索し実行する。
大豊町	○企画する研修会等のオープン化  ・研修内容により、呼びかけの範囲を決定 ・医療・介護・介護予防等に関する研修案内については、町内医療介護事業所に対して全件周知を行う。	★平成29年度末の姿(アウトカム) ・医療介護関係職員の数の確保に止まらず、質の高いサービスを提供できる地域となるように努める。  ○取り組み 研修会等のオープン化 介護職員初任者研修の広域での企画・実施 ○成果 介護職員初任者研修の開催について 平成25年度は、研修修了者13人 平成27年度は、本山町と共同開催 大豊町修了者4人 平成28年度は、嶺北4町村で共同開催するが、大豊町の参加者無し。 平成29年度、最少開催人数に達せず開催できず。 ○課題 最近、介護職員初任者研修への参加希望者が減少している。	★平成30年度については、嶺北4町村で介護職員初任者研修の開催を予定している。
土佐町	取組み事例なし	・嶺北4町村で介護職員初任者研修を継続実施するなど、人材確保に向けた取り組みを実施した。 ・今後も必要に応じた支援を行う。	・嶺北4町村で介護職員初任者研修を継続し、人材確保に努める。 ・必要に応じた支援の検討。
・大川村 ・大川村社会福祉協議会	社協にて職員研修実施し、地域福祉活動計画作成中。 大川村保健福祉総合計画との連動についても協議。	社協職員を増員し、居宅や障害者相談支援事業所を起ち上げ、また、既存のデイサービス事業所、あったかふれあいセンター事業等も充実させてきた。村内唯一の福祉事業所として、介護や障害に限らない地域福祉の視点をもって取り組んでいる。 【課題】 職員が増えたことにより、事業として取り扱うものが増え、また居宅については一人事業所となっていることから、職員の資質向上を今後も継続して取り組んでいく必要もある。	・職員が研修に参加できる体制をとる ・相談しやすい職場づくり ・行政との連携、定期的な情報交換を行う ・社協の活動を住民向けに広報する

## ●取り組み目標「地域の見守りや支え合いの推進」

### (1) 地域で認知症を理解した人が増え、支える仕組みづくり

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
嶺北中央病院	各地区講演会、各種研修会の参加	各職場で認知症サポーターの講演会を開催した。地域で老人会、婦人会の催しとして、認知症の講演会をした。	各地区講演会、各種研修会の参加
大豊町 社会福祉協議会	認知症地域支援推進員の活動 1. あったかふれあいセンターでの啓発活動 2. 認知症カフェの開設(新規5ヶ所) 3. 老人クラブでの啓発活動 サポーター養成講座(民生委員・職員)	認知症地域支援推進員を配置し、地域で啓発活動を行い住民への理解の深めた。 1. あったかふれあいセンターでの啓発活動 2. 認知症カフェの開設 3. 老人クラブでの啓発活動(養成講座) 4. サポーターの育成(民生委員・社協職員) 課題 啓発活動を行い、理解を深めた後地域住民による支え合いの仕組みづくりに繋げる	平成29年度の内容を継続する。 地域包括支援センターと連携し、認知症地域支援推進員を中心として、啓発活動を行う。 1. あったかふれあいセンターでの啓発活動 2. 認知症カフェの開設 3. 認知症サポーター養成講座
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会 嶺北代表		認知症サポーターやメイト、民生委員を通し、地域住民が認知症の方への支える仕組み進んでいる。	地域住民の方と連携し、認知症の方が自宅で長く生活できるよう支援していく。
本山町	・キャラバンメイトが主となった認知症サポーター研修の実施(11/30嶺北高校1年生対象) ・高知県認知症高齢者見守り体制整備モデル事業において、1行政区の住民に働きかけき行った。(10/17~2/17)	・キャラバンメイト数、サポーター数ともに著しく増加できた。 ・あったかふれあいセンター事業の利用者が大幅に増員し、(夏休み中の児童が参加等)活気づいてきた。 ・ミニデイ活動も11か所から13か所の増え、平均開催頻度が、月1回程度から月4回程度に増加する中で、住民自ら地域で暮らす認知症の方への理解と専門職へのつなぎの大切さを伝えることができた。	・学校や金融機関、その他の地元企業でも、キャラバンメイトが主になる認知症サポーター養成を行っていけるよう働きかける。 ・あったかふれあいセンターを「認知症カフェ」と位置づけられるよう支援する。 ・高齢者見守り体制整備事業で足掛かりができ、近所づきあいからの見守りの活動を一層広げていく。



	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
大豊町	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校を対象とした高齢者理解のための教室を実施 (学校、PTA、地域の高齢者等と共同企画)</li> <li>・サポーター養成27人(PTA・教職員)</li> <li>○老人クラブでのサポーター養成30人(立川地域)</li> <li>○民生委員協議会でのサポーター養成7人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★平成29年度末の姿(アウトカム)</li> <li>・住民全体が、認知症について正しい知識と理解を持ち、認知症があっても自分らしく生活できる地域を目指す。</li> <li>○取り組み</li> <li>・サポーター養成 100人/年をめざして実施</li> <li>・住民自主活動やあったかサテライト(ミニデイ)で、認知症予防や対応等の啓発をし、地域の集まりを認知症カフェとしてし、認知症の方の居場所づくりを行う。</li> <li>○成果</li> <li>サポーター養成講座の参加者累計 350人 平成25年度0人、平成26年度102人、平成27年度71人、 平成28年度68人、平成29年度109人</li> <li>○課題</li> <li>認知症ケアパスの普及啓発とともに、住民の自主活動への広がり課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★認知症対策については、認知症地域支援推進員を中心に企画立案してゆく。</li> <li>○サポーター養成継続</li> <li>○認知症ケアパスの見直しと普及啓発</li> <li>○認知症の方及び家族の居場所づくり</li> </ul>
土佐町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護家族の集いの支援継続(11/24、1/18、3/15)</li> <li>・認知症カフェ(あじさいカフェ)実施の支援継続(10/3、12/26、2/27)</li> <li>・認知症サポーター養成研修実施支援(10/17)</li> <li>・回想法についての勉強会の実施(2/5)</li> <li>キャラバンメイト5名、社協1名、包括2名</li> <li>・生活支援・介護予防連絡会の実施(11/22、1/17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あじさいネット会議を継続実施し、認知症に係る取り組みについて、多職種(ケアマネジャー、医師、民生委員、薬剤師、看護師、理学療法士、保健師等)で目標や事業内容を共有しながら取り組むことができた。</li> <li>・介護家族の集いの定期開催、認知症カフェの立ち上げなど、認知症の方と家族を支えるための場が充実された。</li> <li>・あったかふれあいセンターに認知症の方が参加するなど、認知症の方の居場所づくりと地域での理解が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あじさいネット会議の継続実施、介護家族の集い、認知症カフェ(あじさいカフェ)のより効果的な実施の検討を行う。</li> <li>・地域ケア会議(地域ケア推進会議、地域ケア個別会議、実務者会議)、認知症総合支援事業、生活支援体制整備事業、在宅医療・介護連携事業を一体的に進め、地域で認知症を理解した人が増え、支える仕組みを構築する。</li> <li>・地域での見守り体制の整備も含め、サポーター養成に努める。</li> </ul>

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
<p>・大川村 ・大川村社会福祉協議会</p>	<p>H29.11 産業文化祭・健康福祉まつりにて、認知症啓発DVD上映 H29.11 ゆずりは講座 認知症啓発劇を実施(参加者23人)</p>	<p>あつたかふれあいセンター事業の集いに、認知症に限らず介護や福祉サービスを利用する方たちの参加が増えてきた。 認知症出前講座など、単発のイベントではあるが参加者数多く、認知症の理解に対する住民ニーズが見えた。 【課題】 認知症(疑いも含む)の方が社協や保健師とつながることで、住民側は安心できるようだが、その後の地域の受け入れとなると少し戸惑いも見られる。継続的な普及啓発の必要性がある。</p>	<p>・各種地域団体への認知症サポーター養成講座の開催 ・住民同士の見守りや、社協・包括支援センターへの相談・つながりが継続して行える</p>

## ●取り組み目標「地域の見守りや支え合いの推進」

### (2) 認知症等の要援護者を支援する行政、専門職と住民の連携

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
嶺北中央病院	2ヶ月に1回地域包括ケア会議開催。包括支援センターとの情報共有。	地域包括支援センター、MSW、医師、看護師が情報共有をして、地域の患者さんに対応できた。	2ヶ月に1回地域包括ケア会議開催。包括支援センターとの情報共有。
高知県薬剤師会 嶺北地区代表	他地域の関係機関や住民から認知症に限らず相談を受けました。	寄り添い支えることもかりつけ薬局の仕事のひとつであることを啓発しました。	薬局は地域の健康管理ステーションになり、必要な専門職へ連携します。
大豊町 社会福祉協議会	地域包括支援センターと連携し、地域での普及・啓発活動をとおして、地域での支援体制を検討する。 民生委員を中心とした地域での見守り体制(医療情報キットの充実・更新)	平成24年度から民生委員と協働して地域での見守り活動を実施 地域にあった仕組みを考える場づくり(ミニデイリーダー交流会等) 課題 地域包括支援センターと連携し、地域での普及・啓発活動をとおして、地域での支援体制を検討するという目標を立てたが、体制を構築できなかった。	平成29年度の内容を継続する。 地域包括支援センターと連携し、地域での普及・啓発活動をとおして、地域での支援体制を検討する。
中央東ブロック 介護支援専門員 連絡協議会 嶺北代表		介護支援専門員が地域の社会資源の把握に努めていく。	包括支援センターや民生委員を通じて、認知症の方が自宅で長く生活できるよう支援していく。
本山町	・高知県認知症高齢者見守り体制整備事業において、1行政区の住民に働きかけを行った。 ・高知県認知症高齢者見守り体制整備事業において、民生委員、社協、包括、行政で先進地の視察をおこなった。(土佐清水市12/12)	・モデル事業に取り組んだ結果、「本山町見守りネットワーク」の認知度が上がり、住民、行政、包括、社協、民生委員、専門職等のつながりや連携が密となった。 ・定期的なケア会議の開催で、地域の課題やリアルタイムでの住民の声が専門職に届きやすくなった。	「本山町見守りネットワーク」の活動の一環である座談会を今後も継続し、住民の思いや困りごとを丁寧に聞いていく。

	平成29年度下半期の取り組み(成果)	平成25年度から平成29年度(5カ年)の取り組み、成果、課題等(まとめ)	今後の取り組み予定や目標等
大豊町	<p>○身近なところで、相談・見守りができるよう、連携を行う。</p> <p>大豊町の見守り・住民訪問を行う職種や部署の連絡会の定期開催。(1回/月)</p> <p>連絡会参加部署 大豊町住民課 健康づくり班 福祉班高齢担当、障害担当 地域包括支援センター 大豊町プロジェクト推進室 大豊町社会福祉協議会 あったかコーディネーター 生活支援コーディネーター</p>	<p>★平成29年度末の姿(アウトカム) ・認知症支援に関する組織づくりと社会資源の情報発信。(関係者だけでなく、住民への周知も行う。)</p> <p>○取り組み H27年度に認知症ケアパス作成時、町民が利用可能な社会資源を掲載し、全戸配布を行い、町のホームページにも掲載した。 町内の関係機関との連携を持つ。 介護サービス事業所連絡会、見守り連絡会の1回/月開催</p> <p>○成果 高齢者の課題の共有、利用可能な社会資源の周知の徹底</p> <p>○課題 服薬管理等、在宅生活継続するための課題を考えるための場の必要性・・・生活支援、医療・介護連携での対応の必要性</p>	<p>★認知症については、H25年度～H29年度にかけて、様々な取り組みがされてきた。</p> <p>○取り組み ・継続実施 ・認知症の取り組みを積極的に地域に発信していく。</p>
土佐町	<p>地域包括支援センターで認知症ケアパス(案)を作成し、あじさいネット会議の事例検討会で、あじさいネットメンバーから(案)に対する意見を集約した。(11/11)→修正し、3月末完成予定。</p>	<p>・民生委員との日常的な情報交換・共有や見守りネットワーク名簿に基づく民生委員との面談、あったかふれあいセンター職員との訪問ケースの共有など、日頃から情報共有しながら検討する場づくりはできている。</p> <p>・あじさいネット会議の継続実施により、認知症に係る取り組みについて、多職種(ケアマネジャー、医師、民生委員、薬剤師、看護師、理学療法士、保健師等)で目標や事業内容を共有することで、行政、専門職、住民の連携が進んだ。</p>	<p>地域ケア会議(地域ケア推進会議、地域ケア個別会議、実務者会議)、認知症総合支援事業、生活支援体制整備事業、在宅医療・介護連携事業を一体的に進め、認知症の方を支援する行政、専門職、住民の連携推進を図る。</p>
・大川村 ・大川村社会福祉協議会	<p>①あったかふれあいセンター事業 集いの場に認知症を持つ方が継続的に参加できている</p> <p>②地域ケア会議にて、ケアマネ・保健師・リハビリ専門職で情報共有、支援策の検討を行った。(デイの体操メニュー盛り込み等)</p>	<p>社協に直接住民から相談あることが多く、その後社協から保健師や関係機関と情報共有でき、民生委員に対しても見守りに配慮を要する点で情報共有でき、日頃の見守りにつながっている。</p> <p>【課題】 民生委員等の住民で組織している団体に対し、一般的な認知症等の知識や、見守り活動をしていく上での視点を養ってもらおう。</p>	<p>各種地域団体への認知症サポーター養成講座の開催</p>